

## 血管内皮増殖因子阻害薬の種類による 視力改善に寄与する因子の検討

### 1、研究の目的と意義

血管内皮増殖因子阻害薬の硝子体内注射は加齢黄斑変性、近視性脈絡膜新生血管、糖尿病黄斑浮腫、網膜静脈閉塞症、血管新生緑内障を含む様々な疾患で中心的な治療となっています。薬剤の選択肢も増えている一方、どの疾患でどのような状態の時にどの薬剤が適しているかについては評価が定まっています。この研究の目的は当院で上記の疾患に対して抗血管内皮増殖因子薬治療を受けてきた方々のデータを用いてどのような所見がある場合にどの治療が有効であるかを検討することです。これにより、今後より個人の状態に適した薬剤の選択、治療方針の検討ができるようになると思います。

### 2、対象となる患者さん

長崎大学病院眼科、日本赤十字社原爆病院長崎、長崎医療センターで2013年1月1日から2022年12月31日の間に加齢黄斑変性、近視性脈絡膜新生血管、糖尿病黄斑浮腫、網膜静脈閉塞症、血管新生緑内障と診断され、血管内皮増殖因子阻害薬(ルセンチス、アイリア、ブロールシズマブ、またはファリシマブ)の投与を受けられた方。ただし未成年の方、未承認薬のベバシズマブ(アバスチン)を投与された方は今回の検討対象とはなりません。

### 3、研究の方法

それぞれの薬剤で治療を行った後の視力経過に対して、下記の研究に用いる情報に記載した項目、特に中心網膜厚、眼底自発蛍光、脈絡膜厚、眼底造影検査所見など網膜の検査結果が与える影響を検討します。

### 4、研究に用いる情報

性別、年齢、原疾患診断名、治療歴、視力、ハンフリー静的視野検査 MD 値、ゴールドマン視野検査結果、眼圧、虹彩/隅角新生血管の有無、中心網膜厚、眼底自発蛍光、脈絡膜厚、眼底造影検査所見、滲出性変化の有無、血流解析結果、抗 VEGF 薬投与回数、手術内容、治療を終了した場合その理由、有害事象

本研究で利用する情報について詳しい内容をお知りになりたい方は下記の「問い合わせ」までご連絡ください。

### 5、研究期間

研究機関長の許可日～2029年03月31日

## 6、外部への情報の提供

この研究で使用する情報は各機関で個人が特定できないように研究用の識別コードを付与し、情報記録媒体(USB)に保存し、研究代表者に直接提供します。

## 7、研究実施体制

本研究は多機関共同研究です。

《研究代表機関／研究代表者》

長崎大学病院 眼科／大石明生

〒852-8501

長崎県 長崎市坂本 1-7 - 1

電話:095-819-7345

《共同研究機関／研究責任者》

日本赤十字社原爆病院長崎 眼科／栗原潤子

長崎医療センター 眼科／前川有紀

## 8.お問い合わせ先

長崎大学病院 眼科 大石明生

〒852-8501 長崎市坂本1丁目7番1号

電話:095(819)7345 FAX 095(819)7347

【ご意見、苦情に関する相談窓口】(臨床研究・診療内容に関するものは除く)

苦情相談窓口:医療安全課 095(819)7616

受付時間 :月～金 9:00～17:00(祝・祭日を除く)